

ハンセン病問題 100人理解深める

楽泉園入所者も語る

前橋で集会

ハンセン病の元患者との交流や啓発活動などに取り組む「群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに

生きる会」

（広田繁雄会長）は3日、前橋市の

県公社総合ビルで集

会を開き、約100人が

差別や人権問題につ

いて理解を深めた。

団体の結成から20年

以上の活動を、草津町

の国立ハンセン病療養所「栗生楽泉園」入所者が作った詩の朗読や関係者の語りを通して振り返った。

同園入所者で自治会長を務めた岸従一さん

も登壇し、入所が決ま

った際の家族との関わ

りや入所後の生活などを語った。

（大森末穂菜）



栗生楽泉園での生活などを語る岸さん